

大宮駅グランドセントラルステーション化構想 第2回オープン会議

昨年8月に引き続き、第2回となるオープン会議を開催しました。GCS 推進会議や基盤整備部会・まちづくり推進部会での検討状況を広く市民の皆さまと共有させていただくと共に、グループディスカッションにおいては、駅前に限らず大宮駅周辺地域について活発にご議論をいただき、GCS 構想の検討に関わるアイデアや要望・ご意見を伺う機会となりました。



■開催日時：平成30年1月26日(金) 14:00～16:15 ■開催場所：市民会館おおみや 第3～5集会室

■プログラム：

1. 第1回オープン会議の報告
2. GCS 構想骨子の内容とこれまでの経緯
3. スタディパターンの検討状況
4. イメージパースの説明
5. 専門家レクチャー：長谷川浩己氏（武蔵野美術大学教授、オンサイト計画設計事務所パートナー）
6. グループディスカッション：「大宮の守るべき価値・創るべき価値」をテーマに
5～6名×4グループに分かれファシリテーターの進行でディスカッションを実施
7. ファシリテータにより各グループの意見発表
8. 閉会・退場

▼スタディパターン検討状況説明の様子

交通広場と交流広場の配置の観点から検討した4つのスタディパターンをご説明。



▼イメージパースの説明の様子

スタディパターンをベースとして作成したパースにより駅前空間のイメージをご説明。



▼長谷川浩己氏による専門家レクチャーの様子

居心地の良い広場には人々が留まり、周囲の施設や商業空間に回遊性が生まれるということ、また広場のつくり方を工夫することで多様な人が滞在できるようになるということ、コレド日本橋アネックス広場リニューアル（東京都中央区日本橋）や紫波町オガール広場（岩手県紫波郡紫波町）、虎渓用水広場（岐阜県多治見市）等の事例を通して、レクチャー頂きました。



▲ 虎渓用水広場

photo：吉田誠



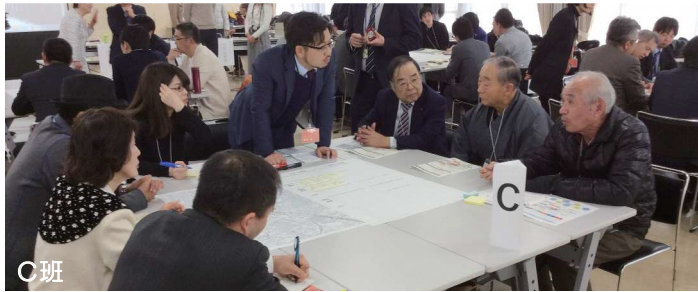
▼グループディスカッションの様子及び各グループの主な意見



A班



B班



C班



D班

- 【A班】**・盆栽、見沼、氷川参道の緑、平成広場にあった水辺等が地域資源。／・繁華街が安全に楽しめたことが古き良き時代の大宮の良さ。
 ・西口と東口の特徴的な違いをポジティブに捉え、特徴をより明確に打ち出していくべき。
 ・門前町としての気質や、地域性を象徴的な表現を考えるべきで、駅は大宮らしくあってほしい。
 ・広い年齢層へのブランドイメージを意識し、風格・文化性を象徴する木造木質の駅前を考えてはどうか。
 ・埼玉スタジアムまでのルートや大宮東地域への交通アクセス、線路上空を利用したターミナル等交通利便性を向上させてほしい。
 ・人が避けて通らない広場、行き交う人を眺められる場所など、人の居場所となる広場がほしい。
 ・広場には水の仕掛けや子供が遊べる空間があると良い。街の中に無料で時間を過ごせる場所、なごめる場所があると良い。
 ・一宮通りも緑を活かしていき、氷川参道とつなげていく。／・友人と何気なく過ごせる、高校生の居場所を守ってほしい。
 ・街を訪れる女性に配慮した綺麗な環境を意識すべき。スポーツやアイドルカフェ等のエンターテインメントの機能があると良い。
- 【B班】**・武蔵一宮氷川神社の歴史と誇り、大宮宿の歴史、氷川参道や大宮公園という資源を大切にすべき。
 ・大宮駅は世界の盆栽村の入口。また、鉄道を見渡す景色を大事にすべき。マニアックな視点で鉄道の価値を感じられる場所。
 ・今の路地空間の雰囲気の一部でも残せると今後大宮のレガシーになる。下町感、田舎と都会に近いことなども守るべき価値。
 ・残すべき価値のあるものは何一つない。何よりも早くやるのが大事なので進めてほしい。
 ・京浜東北線側の東口改札や東口北側のエレベータなど乗換の利便性を確保してほしい。
 ・氷川参道沿いに良いお店が出来てきているので良い店並みに。
 ・教育・文化交流や公民館機能、多世代のコミュニケーションの場が必要。／・座れる休憩場所や、打合せ等のしやすい場所がほしい。
 ・地上の人の行き来を可能にし、地下も区役所辺りまで地下街等で高度に利用すべき。
 ・2階は広場や通路、1階を交通空間とすべき。地下はコストが掛かるので避けるべき。
 ・北関東の拠点として東京駅並みにして頂きたい。／・氷川神社に準じた街のデザインにすべき。
- 【C班】**・大宮の夏祭り、氷川神社や見沼たんぼが守るべき価値。
 ・商店の賑わいが近く、駅と街が近いと感じられるところを残してほしい。
 ・建物が老朽化しておりスペースが少ない。災害時帰宅困難者への対応は特に重要。区役所跡地はその種地になるのではないかと。
 ・駅周辺には休憩スペース、止まり木、一坪広場のような場所があると良い。広場は姫路駅前のようなドッグ形式が良いのでは。
 ・駅利用者が中央通路に集中し過ぎの為、開発で分散を図るべき。首都圏の北玄関としてバリアフリー機能等は特に充実を要する。
 ・駅前には賑わいに重点を置き、交通機能は中山道以東に分担しては。／・商業と路地の界隈性を共存させ、エリア価値の向上へ。
 ・女性が安心して働ける保育園がほしい。うば車を押して歩ける街にしてほしい。
 ・本社機能を誘致することが必要。また、鉄道事業者が積極的にまちづくりに貢献していくべき。
 ・これまで大きな投資の機会が少なかった。都市の多様性がないと街の魅力が出てこない。
- 【D班】**・商業、界隈性、見沼たんぼ等の自然が地域資源。都市と自然の共生を図るべき。
 ・氷川神社や氷川参道、国鉄操車場の街、交流拠点、氷川の村、見沼という資源を大事にし、街との関係を考えていくべき。
 ・大宮は商業の街、ランドマークである氷川神社・盆栽美術館を活かし、見沼には道の駅などの拠点を設けてはどうか。
 ・サッカーファンの温かさを大事にしながら、スポーツとまちづくりの関係をつくっていききたい。
 ・見沼たんぼ周辺に合宿所等のスポーツ施設を設け、スポーツの街を謳っては。／・自転車利用を促進し見沼との接続をすべき。
 ・駅から人が出てきてない、広場に経済生産性は欠かせない、多治見虎渓用水広場は参考になる。
 ・見沼の水資源を防災用に活用し、日常的に居心地の良い水辺空間に。／・開発時に防災機能を強化し、防災広場を整備しては。
 ・大宮は首都圏と比較すると商都とは言い難い。居酒屋やチェーン店ばかりでは商都とは言えない。
 ・テーマとなるキャッチコピーをつくるべきで「美」と「食」をテーマにしてはどうか。
 ・東京と同じである必要はない。特徴を打ち出すべき。／地産地消の飲食が大事。そこに行かないと食べられない物があるべき。
 ・見沼や氷川神社などに導くサインを充実させていく必要がある。

【武蔵野美術大学 長谷川教授のコメント】 歩いている場所を考えていくことはすごく大事。日常の出来事がシームレスにどうつながっていくかが大事だと思います。これだけ多くの人々が歩いていると見てて楽しいくらい、人の動き自体がスペクタクル。流れと滞留をどう扱えるかがポイント。

【UDCO 工藤センター長のコメント】 駅前ですぐには感じられない多様な地域の価値を押さえた上で、GCS 構想では感じられるように結びつけてほしいというご意見、また様々な人の立場から、東と西のイメージの整理をして考えてほしいという貴重な意見を頂きました。

【まちづくり部会長 東京大学 窪田教授のコメント】 人間の根源的な活動に沿った場所になると人が広場に出てくるようになるというお話、これは大宮にとってとても大事な視点だと思います。街の魅力や課題を具体的にどう扱っていくかという時に、GCS 構想で新しく何を実現するかという議論を是非していくべきだろうと思いました。例えば防災という視点で突き詰めていくこと、その結果が大宮ならではなくなっていくことを意識していくべきだろうと思いました。